アメリカ英語方言概観

——語いについて——

武本昌三

1. まえがき

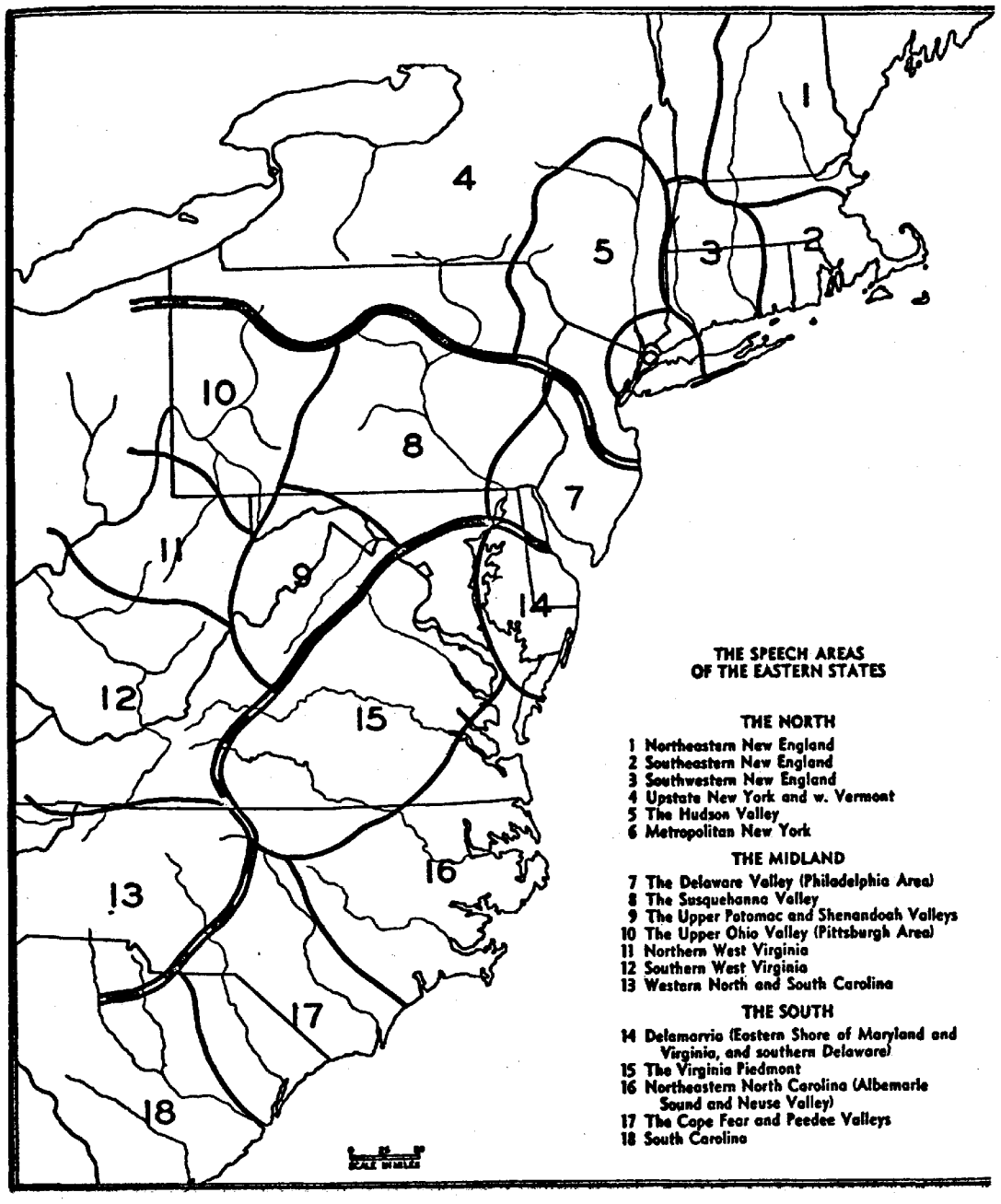
ある一国のいろいろな地方の方言の成立について，さまざまな要因が考えられるのは，どこの国の場合も同じである。しかしアメリカの場合，特に重要なのは，植民地時代にさかのぼる歴史的要因であろう。

われわれはまづ，現在のアメリカ英語が，17世紀のはじめにイギリスから渡来した植民者達によって使われていた英語を母胎にして形成されてきたことに，注目せざるをえない。1607年にイギリスからの最初の植民者として，Virginia の Jamestown に上陸した Captain Smith の一行にはじまり，1620年の Mayflower 号による Pilgrim Fathers が Plymouth へ渡航して来た当時は，ちょうどイギリス本国では，Shakespeare や Francis Bacon, Ben Jonson 等が活発な文筆活動を続けていた頃であった。したがって，初期の植民者達は，その出身地によって Shakespeare 時代の，いわゆる Elizabethan English のさまざまな方言を用いていたと言える。つまりこの時点においては，"American English" は方言をも含めて "British English" そのものであったわけである。

ところが，17世紀初期のアメリカにおける各地の植民地は，地理的にも社会的にも互いに孤立してしまっていた。交通の未発達，地形の障害，それに生活の困難と原住民である Indian の反感も加わって，方言発達の主要条件の一つであり温床であるともいうべき isolation を，一世紀にもわたって続けざるをえなかったのである。このような環境の中で，アメリカ方言は，イギリス各地の方言をそのままアメリカに持込んだ初期の移民によってまづ

その基礎がすえられ，そしてそれ以後の英語もしくは英語以外の外国語は，既存のアメリカ英語と方言に何らかの影響を与えつつも，自然にこれに同化されていった。アメリカ方言の成立は，このように，初期の植民地の状況と，その後も引続いて渡来して来た複雑な移民の歴史によって，少なからず影響を受けてきたことが，その大きな特色であると言える。

このようなアメリカ方言の実態は，1931年に Hans Kurath によって，大



西洋沿岸各地について明らかにされはじめた。[1] 彼の調査結果は，1949年の *A Word Geography of the Eastern States* となって実を結んだが，この中で示されている主要方言地域は，前頁の図のように局限されている。[2] しかし，この図に示されている範囲こそが，アメリカのいわば「方言のふるさと」であって，われわれはその重要性をいくら強調してもし過ぎることはない。

アメリカにおけるイギリスからの植民者達が残らず Federal Constitution に賛同し，はじめての国勢調査が行なわれたのは1790年のことであった。その当時のアメリカの人口は約400万人と推定され，その中の95パーセントまでが Appalachian 山脈の東側，すなわち，おおよそこの図の範囲内に住んでいたとされている。[3] この時期のあと，Appalachian 山脈を越えてしまってからは，東部海岸各地域からの開拓者が相交わり入乱れて，"General American" 的な色彩が強くなってしまう。したがって，この東海岸各地方の方言研究こそが，局限された範囲のものであるとはいえ，全体としてのアメリカ方言研究のための，最も重要な根幹であると言えるであろう。

この図の三つの主要な方言の境界線は，アメリカを横断し，Kurath はこれらをそれぞれ，北部 (Northern)，中部 (Midland)，南部 (Southern) と呼んだ。

北部と中部とを区切る線は，Sandy Hook のやや南の New Jersey に始まり，北西に向って Pennsylvania の Susquehanna 河の東支流に達し，それからは北部層のすぐ南の Pennsylvania を通って西へ行く。Ohio ではこの境界線は，Western Reserve の南に進んでからまた北西に向い，Indiana のFort Wayne の上を通る。さらにこの線が South Bend に接近すると，やや南西に下降し，Illinois を通って Quincy の北にある Mississippi 河に到達する。

---

(1) American Council of Learned Societies を sponsor とする1930年の言語地図作成計画による。W. Francis, *The Structure of American English*, p. 488 参照。

(2) H. Kurath, *A Word Geography of the Eastern United States*, Fig. 3.

(3) 豊田　実,『アメリカ英語とその文体』pp. 1–2 参照。

中部と南部とを区切るもう一つの重要な境界線は，Delaware 州，Dover の幾分南寄りの地点から始まり，やや弧形を描いて Baltimore を通り抜け，Potomac 河の北方で急に南西に曲る。それからさらに，Virginia の Blue Ridge 山脈の峰に沿って Tames 河の南部に至り，そこから North Carolina 高原へ向きを変える。South Carolina や Georgia の南部附近では，この境界線はどのように伸びるか，未だ明らかにされていない。(4)

しかしここで述べておかなければならないことは，このような境界線を決定するに当って，Kurath は，彼の著書の題名が示すように，発音や文法などよりも，どちらかといえば，語いに重点をおいて方言の分布を考えていることである。そしてまた，改めて注意しなければならないことは，そのような Kurath の境界線そのものが，所詮，方言の分布を最大公約数的にまとめて，例外と矛盾を常に含んでいることを前提にして引かれた大まかな線でしかありえないということである。

以上のことを一応念頭におきつつ，アメリカ英語の方言の語いについて，使用階層を問わず各地方でひろく用いられているもののみをとりあげ，(5) それらを北部，中部，南部に分けて概観を試みていくことにしたい。

II. 北部方言

1. 住居と日用品に関するもの

北部方言の中で，住居に関するものとしては，*eaves trough*（雨どい），*clapboards*（下見板），*stoop*（玄関口，ポーチ），*curtains*（巻上式日よけ）等があげられる。これらのうち，*stoop* は，その分布が北部でも，主として内陸地方に限られているが，他の三つは，一応，北部全域にひろがっているといってよいであろう。もっとも，より厳密には，これらの間にも分布上の相違がないわけではない。

---

(4) A. Marckwardt, *American English*, p. 135.

(5) 使用階層，Type I, II, III のうち，ここでとりあげるのは，少くとも Type I, II によって用いられていると思われるもののみである。Francis, *ibid.*, p. 513 参照。

先づ，*eaves troughs*（または *eaves troths*）は，中部の *spouting, spouts* に対応する典型的な北部方言の一つであると言える。ただし New England の北部では，*eaves spouts* が *eaves troughs* と併用されていることに注意する必要がある。さらに，言語地図にも示されているように，*gutters* が南部のみでなく，中部の海岸地帯から北部全域にかけても，ひろく用いられていることから，結局，*gutters* という一般語が北部にはあって，そのほかに方言としての *eaves troughs* があり，特に New England 北部では，*eaves spouts* も併用されているということになるようである。

clapboards も，Type I から III に至るまで，ひろく人々に用いられる北部全域の方言であるが，Kurath の言語地図や *ADD* には記載がないので，McDavid, Jr. の調査によった。[(6)] これは *DAE* の用例で，"Clap-boards are thin pieces of four feet long, riven generally out of white oak, and one edge thicker than the other." とあるように，木造家屋外壁の下見板の名称である。この意味での *clapboards* は，*OED* にも，*EDD* にもなく，この語は，*DAE* の用例が 1637 年にまでさかのぼることでもわかるように，方言としても，Americanism の最も古いものの一つと考えられる。

これに対して，方言としての *curtains* は，極めて新らしい Americanism である。*ADD* には 1926 年の Maine における用例として，"If you spoke of 'curtains' simply, you would be understood to refer to the window shades." とあり，この "shade" は "a window screen on a roller" であることがつけ加えられている。*roller shades* そのものが "a recent invention" なのであるから，"pull down the curt'ns." (*ADD*) の *curtains* と，一般的に例えば，*lace curtains* などという時の *curtains* とは区別されなければならない。分布範囲としては，前述の通り，北部全域を cover しているほか，Philadelphia 地域や Chesapeake 湾一帯，或いはさらに南下して，North Carolina 北東部の海岸地帯にもひろがっているのが，この方言の特

(6) Francis, *ibid.*, p. 514 参照。

徴である。

北部内陸地方で主として用いられている *stoop* は，オランダ語からきたAmericanism で，Irving の *Knickerbocker History* の中では，"the porch, commonly built in frout of Dutch houses, with benches on each side." と定義されている。[7] 北部では言語地図にもあるように，極めて明確なisogloss で示されているが，その他の地域でやはり方言的に用いられている，*gallery, porch, piazza, veranda, bridge* 等については，*ADD* や *DAE* の用例はあっても，言語地図には記載がなく，分布状況はあまり明確ではない。

次に，日用品に類するものとしては，*pail*（バケツ），*spider*（フライパン），*comfortable, comforter*（ふとん）等が北部方言である。

pail は英語としても非常に古い言葉の一つで，*OED* の用例も，1000年頃にまでさかのぼることが出来る。*DAE* においても，1622年にすでに，"We found ... also an English Paile or Bucket." のような用例が記録されている位だから，方言としても，最も早く，北部に定着したものに違いない。もっとも昔は，*pail* は木製が普通であったから，*wooden pail, ceder pail* などの合成語も一般に用いられていた。[8] 中部や南部での *bucket* が北部でも方言的に用いられた形跡はあるが，アメリカ革命の頃を境にして影をひそめ，*pail* が優勢となって現在に及んでいると考えられる。[9]

「フライパン」をあらわす語は，*frying-pan, frypan* のほか，*skillet, spider, creeper* 等があり，このうち，*spider* が北部に，*skillet* が中部に方言として定着した。[10] しかし，この *spider* と *skillet* は，もともと同一種類のものではなく，*DAE* の1790年の用例でも，"William Robinson, Junr ... Hath for Sale ... bake pans, spiders, skillets." とあって，少なくともこの頃までは，

(7) G. Krapp, *The English Language in America*, Vol. I, p. 161.

(8) 拙稿，"アメリカ英語における北部方言の特徴について"「人文研究」38輯，p. 155.

(9) Kurath, *ibid.*, pp. 12–13.

(10) ただし，frying pan が都会における用語としてますますひろがっていく傾向があるのに対し，*spider* や *skillet* は地域語として，その使用範囲をせばめつつある。Marckwardt, *ibid.*, pp. 145–146.

spider と *skillet* は区別されていた。*OED* や *EDD* によれば *skillet* の方は，今もイギリス方言の中に残されており[11]，一般に，長い柄のついた stew-pan のような容器のことであって，アメリカに渡ってからは，中部方言の「フライパン」になったものである。一方，*spider* の方は，恐らく New England の植民地で造られた語で，はじめは，炭火の上などにおいて煮焚きするのに便利なように，長い三本足と柄のついた鋳鉄の鍋のことであった。この方言は，したがって，初期の植民者達が，いわゆる「フライパン」と spider を混同して使用した名残りであると考えられる。

comforter（または *comfortable*）は，ベッドにかけるふとんを意味する北部方言で，*comforter* は北部でも特に New England の東部に多く，*comfortable* の方は，New England の南東部や Hudson 渓谷で優勢である。用例としては，

> Let 'em make comfortables out o' their old gowns, and if that don't do, let 'em sleep in their day-clothes, as I do!
>
> —— Kirkland, *Western Clearings* (1845)

等があるが，*comfortable* そのものは普通，綿などをたっぷり入れた厚めの掛けぶとんであることに注意する必要がある。中部と南部ではすべて *comfort* で統一されていて，北部方言と明確に区別されるようである。例外的に，Trenton, Philadelphia, Wilmington のような諸都市で，北部の *comfortable, comforter* が用いられることがあるが，これは取引用語として使われているためであるらしい[12]。

2. 食物に関するもの

北部全域で用いられている代表的な食物に関する方言としては，先づ *johnnycake*（トウモロコシパン）があり，*bite*（軽食），*salt pork*（塩づけの豚肉）があげられる。これらのほか，*cottage cheese* の方言として *Dutch cheese,*

(11) 拙稿，*ibid.*, p. 159.
(12) Kurath, *ibid.*, p. 13.

sour-milk cheese, pot cheese が，また「凝乳」の方言として *lobbered milk, bonny-clabber*（または *bonny-clapper*）が北部内で地域を区切って用いられており，*raised bread*（白パン）や *fritter*（パンケーキ）も同じように，地域的な北部方言である。

johnnycake は，トウモロコシの粉に，ミルク，卵，水を加えて焼いたもので，*DAE* の 1805 年の用例では，これが下流階層の食物であることを匂わせた，次のような説明がある。

> The lower class of people mix the flour ... with water, make a sort of paste, and lay it before the fire, on a board or shingle, to bake, and generally eat it hot, as it is but very indifferent when cold. This is called a Johnny cake. —— Parkinson, *Tour*

この語の起原については，Mathew の *DOA* の記述をはじめ，諸説紛々としていてつまびらかでない。ただその中でも，昔イギリス本国やスコットランドの田舎で，めの粗い小麦で焼いた小さなパンを *jannock, johnick, johnick bread* などといったことから，それらがアメリカでトウモロコシを材料にするようになってからは，*jonakin, jonikin, johny bread, johny cake, journey cake* となり，最後に *johnny cake* が一般化したという説が，北部方言の成立過程から考えても，最も真ぴょう性があるように思われる。(13)

今日でも，*jonikin* (*johnnikin*) は南北 Carolina の東部や，Maryland の東海岸では方言として用いられてはいる。しかし，land of johnnycake といえば New England のことを示し，口語で johnnycake といえば New England 人をあらわすように，*johnnycake* は New England を中心にした，最も典型的な北部方言である。

「軽食」の *bite* は，中部の *piece*，南部の *snack* に対して，ほぼ明確な isogloss で示すことが出来る。ただ，南部にも *bite* が散見出来るように，北部にも *bite* に混って，*snack* が用いられていないわけではない。(14)

---

(13) 拙稿，*ibid.*, p. 158.
(14) Kurath, *ibid.*, Fig. 127.

この *bite* は，今でもイギリス方言に残っている，古い英語の "a mouthful, a small portion of food" から来ていることは間違いないところであろう。いろいろな evidence から見て，これがアメリカに渡ってから北部で "eating something between meals" の意味の方言として定着したものと考えてよさそうである。

salt pork は，現在でも地方の農家などでは，主要食品の一種であるらしい。呼名も，*salt pork* をはじめ，主として中部で用いられている *side pork, side meat, side of bacon* や，南部の *middlin*（または *middlin meat*）等があってかなり多彩であるが，これらの中で，北部方言としての *salt pork* が最も popular であると言えるであろう。*DAE* の用例では，かつては *salted pork* という形でも用いられていたことが示されている。

cottage cheese の呼名も極めて多彩で，*Dutch cheese, pot cheese, sour-milk cheese* のほか，*smear case, curds*（または *curds cheese*），*cruds*（または *crud cheese*），*clabber cheese, bonny-clabber cheese* 等があげられる。

北部方言はこれらの中，*Dutch cheese, pot cheese* 及び *sour-milk cheese* であるが，New England の北部などでは *curds*（または *curd cheese*）が *sour-milk cheese* と併用されていることに注意しなければならない。この *sour-milk cheese* は *curds*（または *curd cheese*）との併用地域を含めて一般に，New England 東部の海岸線に沿って用いられているといってよく，オランダ語の *pot kees* からきた *pot cheese* は，首都ニューヨーク周辺や Hudson 河流域で用いられている。*Dutch cheese* は New England の東部海岸線を除いた全域に分布しているので，これがいわば，*cottage cheese* の代表的北部方言とでも言えるかも知れない。

「凝乳」については，アメリカ語としての統一された呼び名はなく，地方語或いは地域語としての，*clabber, clabbered milk; bonny-clabber, bonny-clapper; lobbered milk, loppered milk; thick-milk; curdled milk, crudled milk; sour milk* 等が存在しているだけである。この中の *bonny-clabber* は Irish の *bainne*（＝milk），*claba*（＝thick）からきた語で，恐らくこれがアメリカに

おけるさまざまな地方語，地域語の原型であると推測される。

分布範囲としては，*bonny-clabber*（または *bonny-clapper*）が主として New England の東部にひろがり，*loppered milk*, *lobbered milk* はその西部に散らばって，これらが北部方言を形成しているということになる。(15)

「パンケーキ」については New England 東部で *griddle cake* を，New Hampshire と Maine では *fritter* を用いているほか，*pancake* そのものも Connecticut 西部に定着した北部方言である。

「白パン」の *raised-bread*（または *riz-bread*）は，主として南部で用いられている *light-bread* に対応する北部方言であるが，その分布範囲は大体，New England に限られているようである。

3. 自然と動植物に関するもの

自然関係の方言としては，「小川」を意味する *brook* と *kill* があげられる。

brook の分布状況は，Kurath の言語地図では，New England, New York 州，Pennsylvania 北部を cover しているが，中でも特に，New England に集中的にあらわれている。Hudson 河と Delaware 河流域には若干 *kill* が見られるが，これもオランダ植民地の影響で，オランダ語の *kill* がそのまま残されたものであろう。(16) もっとも，New York 州や北部の内陸地帯に入っていくと，*creek* や *run* が散見出来ないわけではない。

結局，Krapp も "The earliar meaning of *creek* as a branch of the sea has been generally extended in America to mean a small fresh-water stream, though this use is not yet very common in New England, where such streams are usually called brooks." と言っているように，(17)

---

(15) この分布状況は，New England における東方からと西方からの移住のあとを示すものである。山崎英夫，『アメリカのことば』p. 45 参照。

(16) ただしこの場合，通常 *Batten Kill*, *Catskill*, *Catskill Creek*, *Schuylkill River* のように，固有名詞にその名残りを留めているだけである。

(17) Krapp, *ibid.*, p. 85.

creek が北部にも New England を除いて浸透して来ている状況では，より厳密な意味で，*brook* は北部方言というよりも，New England 方言というべきなのかも知れない。

次に動物に関する呼び名としては，*darning needle*（トンボ），*angleworm*（ミミズ），*chipmunk*（シマリス）が，植物に関する呼び名としては，*hay cock*（乾し草の山），*buttonwood*（スズカケノキ）等があって，いづれも代表的な北部方言である。

「トンボ」は一般的には，*darning needle* または *devil's darning needle* で，これは北部全域にあてはまる Americanism である。ただし，普通語としての *dragon fly* が併用されていることにも注意しなければならない。

この *darning needle* の分布状況は，中部方言の *snake feeder* との間に明確な isogloss で示すことが出来る。例外的に，Type III の Philadelphia 人の間でも用いられているが，これは New York 市の影響によるものであるらしい。このほかにも散発的に darning needle が用いられている地域として，Virginia 北部，Ohio 上部，West Virginia の南半分などがあるが，この中 West Virginia の場合は，おそらく，New England 植民地との，過去における接触の名残りであると考えられる。(18)

「ミミズ」は各地方毎に，*earthworm, eassworm, ees-worm, redworm, angle-worm, angle dog, bait, dew-worm, eelworm, fishbait worm, fishing worm, fish-worm, mudworm* 等の呼び名があって，方言としては極めて多彩である。(19) この中，北部全域にわたって最も一般化されているのが *angleworm* であるが，この呼び名は，地域によって相違はあるにしても，むしろこの語だけが単独で用いられているのではないことに注目しなければならない。

angle worm は元来，イギリス南西部の方言であったものが，移民とともにアメリカ北部に定着したものと考えられるが，*DAE* の 1832 年以来の用例では，*angle worm* が北部からはみ出している例外もないわけではな

(18) Kurath, *ibid.*, p. 75.
(19) Marckwardt, *ibid.*, pp. 144–145 参照。

い。一方，*ADD* で見ると，*angle worm* について，例えば1894年の用例で，Connecticut 州西部には *angle worm* 以外の語は知られていないとある。結局，Kurath の言語地図を見ても明らかなように，*angle worm* という最も一般化した呼び名が北部にはあって，そしてそのほかに，*fish worm, earth worm, mud worm* のような地域語が *angle worm* と併存しているというべきなのであろう。

「シマリス」は，地方毎に *chipmunk, ground squirrel, ground hackie, chickery, grinnie* 等の呼び名で呼ばれている。この中 *chipmunk* が北部方言で，南部と Midland 南部の *ground squirrel* に対応する。

chipmunk は，Algonquian 語からきた Americanism である。Kurath の言語地図には記載がないが *DAE* や *ADD* には *chipmunk* のほか *chipmuck* と呼ばれている用例も少なくはない。

hay cock は牧場などで一時的にかき集められた乾草の小山のことで，この点 *hay stack* と混同しないよう注意を要する。典型的な北部方言であるが，Midland 北部にまでこの分布範囲はひろがり，南部の *hay shock* と境を接しているのが見られる。もっとも，同じ北部内でも，もっと狭い地域語として，*heap* と *tumble* が *hay cock* と併用されることがあることも，Kurath の言語地図により明らかであると言えよう。[20]

「スズカケノキ」は北部で *sycamore* が用いられていないわけではない。ただこの語は，いわゆる "book word" であって，一般には Type I から III までを含めて *button wood* または *button ball* である。この中，*button wood* の方は New England 東部に分布し，*button ball* は主として Hudson 河流域を中心とする New England 南西部にひろがっている。Kurath によれば，この *button wood* と *button ball* との分布範囲の境界が明確になってきたのは比較的最近のことであるらしい。[21]

---

(20) Kurath, *ibid.*, Fig. 58.
(21) Kurath, *ibid.*, p. 76.

4. その他

以上述べてきたもののほかに，北部方言として用いられている主な語をあげると，*whiffletree*（馬車の遊動棒），*swill*（残飯），*stone wall*（石の囲い）等がある。

whiffletree（または *whippletree*）という呼び名は，典型的な北部方言の一つで，これらの分布範囲を isogloss で示すと，New Jersey から Ohio にかけて，中部方言の *singletree*（または *swingletree*）との間に，極めて明確な一線で識別出来るのが特徴である。

OED には，この *whippletree*（または *whiffletree*）は *whip* からきたことが示されており[22]，*EDD* でも *whip* からの派生語としての *whipple-tree* をあげ，Cornwall 方言であるという。1700年頃までの New England 住民の三分の二以上がイギリス南部の出身者であったということからも，この呼び名が北部方言として定着したことは，容易に理解することが出来よう。

swill は豚のえさにする「残飯」で北部全域に方言として定着している。イギリスでは1570年頃から使われている記録があるが，*EDD* にも "Pigs'-wash; any kind of semi-liquid waste from the dairy or kitchen." とあって，イギリス方言としても残っていることが示されている。一方，北部の *swill* に対して，中部と南部では一般に *slop* が用いられている。しかし北部でも，この *slop* が *swill* に混って散見されることがないわけではない。

stone wall は畑や牧場などのまわりに石を積み上げて作った囲いのことで，典型的な北部方言の一つである。中部方言の *stone fence* とは，比較的明確な isogloss で区別されており，南部方言では，*rock fence* または *rock wall* と呼ばれている。*ADD* にも *DAE* にも，その用例は少なくはなく，現在もイギリス英語としては，むしろ方言的ですらない。

---

(22) *whiffletree* は，例えば *whiffet* が *whippet* の variation であるのと同様に，*whippletree* の variation である。[*DOA*]

III. 中部方言

1. 住居と日用品に関するもの

先づ住居関係では前述の北部と同じで，呼び名が異なるだけである。すなわち，*blinds*（日よけ），*spouting*（雨とい）及び *weather boards*（下見板）がそれぞれ中部方言ということになるであろう。

方言としての *blinds* は，ここでも "A length of material mounted on a roller and capable of being pulled up or down; a shade." (*DAE*) の意味であって，北部方言の *curtains* に対応する呼び名である。その使用頻度は，West Virginia, Virginia, 及び North Carolina の西部山岳地帯，Maryland 西部，Susquehanna 河流域等において特に高く，また北部での場合のように，*blinds* が *shutters* の意味で混用されることが決してないのも一つの特徴である。[23]

この中部方言の意味での *blinds* は，イギリス方言の中にも見当らず，Americanism と考えられる。用例の中には，*DAE* にも，*ADD* にも単数形の *blind* が含まれているが，それらが中部方言の *blinds* であるかどうかはつまびらかでない。しかし一般的には，Kurath の調査にしたがって，複数形の *blinds* が中部方言であると考えるべきであろう。

「雨とい」は中部では主として *spouting* である。ただし，地域によっては *spouts, water spouts, rain spouts* の形も *spouting* と併用されているし，北部の *eaves troughs* も全く見られないわけではない。

OED には，*spout* を "A pipe by which rain-water is carried off or discarded from a roof." として 1392 年からの用例をあげているが，*EDD* には記載がない。この語はむしろイギリスではすたれて，*spouts* 或いは *spouting* の形でアメリカ中部方言として命脈を保っているというべきであろうか。

---

(23) Kurath, *ibid.*, p. 52. なお，*curtains* が用いられる北部などでは，*shutters* の意味で *blinds* が用いられたりする。例えば 1929 年の Maine の用例，"A house was almost invariably white with green blinds, elsewhere called shutters." [*ADD*] の *blinds* は中部方言の *blinds* とは同じでない。

「下見板」の中部方言である *weather boards* もまた，古くからのイギリス英語で，"One of a series of boards nailed horizontally, with overlapping edges, as an outside covering for walls." として使われていたものが，そのままアメリカ中部に入って来たものである。しかしこれは，南部でも用いられているので，厳密な意味では中部方言と言い難い。

日用品に関するものとしては，*skillet*（フライパン）と *poke*（紙袋）ぐらいが代表的な中部方言である。北部方言の *pail* に対応する *bucket* が，中部方言として使われていないわけではないが，これも上例の *weather boards* と同じく，南部にもひろがっていることもあって，方言的な色彩はむしろ薄い。

「フライパン」の *skillet* は，中部全域にひろく分布しているが，イギリス英語としても非常に古い語の一つで，語源も明らかではない。ただ，*OED* の用例では，Yorkshire, Lancashire 等イギリス北部の方言として用いられていたらしいことがわかるだけである。

もっとも，イギリスでいう *skillet* は，長い柄のついた stew-pan のような容器のことで，アメリカ中部方言の *skillet* とは違っていた。しかし，これが移民とともにアメリカに渡ってからは，何時の間にか「フライパン」をあらわす中部方言となり，そのまま定着してしまったものに違いない。[24]

この *skillet* はまた，アメリカにおいても，北部方言の *spider* とは，例えば次の *Word Book* の説明のように，はじめは種類の違うものとして理解されていた。

> Skillet, a cast brass semi-globular utensil with 3 short legs. Spider, a long-handled cast-iron cooking utensil with 3 or 4 legs or feet and a top. —— Green, B.W., *Word-Book of Virginia Fork-Speech.*

しかしこの相違もやがて不明確になり，形状も少しづつ変ってきて，現在のフライパンに統一されていったものと考えられる。

「紙袋」を *poke* というのも，独特の中部方言である。一般に *paper bag* や，

---

(24) T. Pyles, *Words and Ways of American English*, p. 61 参照。

paper sack が用いられていないわけではないが，*poke* はこれらと併用されながらも，その分布範囲を中部全域にひろめている。例外的に Pennsylvania の一部で *toot* が用いられているが，これは Pennsylvania German の影響であるらしい。*poke* そのものはイギリスで方言的に用いられていたのが，アメリカへ渡って来たもので，Americanism ではない。

2. 食物に関するもの

食物に関する中部方言としては，*smearcase* (cottage cheese)，*piece* (軽食)，*thick milk* (凝乳)，*corn pone* (トウモロコシパン)，*side meat* (塩づけの豚肉)，*flannel cake* (パンケーキ) 等があるが，*smearcase, piece* を除いては，いづれも，中部全域を cover するようなひろい分布範囲を持ったものではない。

smearcase は Pennsylvania German の影響を受けた語のうち，最も popular なものの一つで，典型的な中部方言であるといってよい。[25] これは *shmear case* と書かれたり，*smear cheese* と言われたりもするが，もともと，ドイツ語の *Schmierkäs* からきた。

ドイツ人がはじめて Pennsylvania へ移住してきたのは 1683 年のことであるが，大量の移民が流入しはじめたのは 1727 年以降で，革命の頃には，ドイツ系移民の数は，Pennsylvania の人口の約 3 分の 1，およそ 10 万人にも達するようになっていた。[26] したがって，*smearcase* は Americanism としても比較的新らしく，用例としても，*DOA, DAE* の次の 1829 年のものが一番古い。

> A dish, common amongst the Germans, ... is curds and cream. It is very palatable, and called by the Germans smearcase.
>
> —— Royall, *Pennsylvania.*

---

(25) Pennsylvania German に由来する語いには料理に関するものが多い。拙稿 "アメリカ英語における中部方言の特徴について"「人文研究」41 輯，p. 24 参照。

(26) Pyles, *ibid.*, p. 59.

この *smearcase* はまた，前述の *shmearcase, smear cheese* のほか，用例の中では，*smear-cases, smear-kase, schmierkase* などの形で見られることもある。

「軽食」の意味での *piece* もまた，中部方言としては unique なものである。地域により，*bite* や *snack* も散見されないわけではないが，一応中部全域を cover して，北部の *bite* と南部の *snack* との間に，比較的明確な isogloss で示すことが出来る。

ADD の 1916 年の用例では，

> We can have a piece before we go to bed? ... I'll set you a piece, Laban; I was just going to get me a bite of something.
>
> —— Howells, W.D., *The Leatherwood God.*

等が示されているが，この中部方言の意味での *piece* は，おそらくイギリス方言で用いられる "a piece of bread" の意味での piece と結びつくものと思われる。[27]

「cottage cheese」の呼び名は，中部では *thick-milk, cruddled milk*（または *crudded milk*）のほか *clabber*（または *clabbered milk*）もある。

thick milk の分布範囲は，主として Pennsylvania 東部で，この語も Pennsylvania German の影響を受け *Dickemilich* からきた。Pennsylvania 西部に分布する *cruddled milk* の方は Scotch-Irish が語源だという。[28] 主として Midland 南部に分布している *clabber*（または *clabbered milk*）は，南部方言として，南部全域にもひろがっていることを考えると，外来語の影響を受けた *thick milk* と *cruddled milk* だけが，厳密な意味での中部方言ということになるであろうか。

---

(27) ただし異論がある。"*Piece* is not uncommon in the New England counties of Pennsylvania, in parts of Upstate New York, and on the Jersey side of the upper Delaware. Since Pennsylvania expressions rarely spread to these sections and since the word is not current in New England, *piece* may here have a Dutch background." Kurath, *ibid.*, p. 72.

(28) Kurath, *ibid.*, p. 71.

corn pone は北部方言の *johnny cake* に対応する「トウモロコシパン」の呼び名であるが，*pone bread* や単に *pone* とだけ呼ばれることもあり，分布範囲は中部全域におよんでいる。しかしこの呼び名は，南部にもかなりひろくゆきわたっているので，厳密な意味で中部方言とはいい難い。*pone* は Algonkian 語からきた Americanism で，以前はこの呼び名が，中部と南部の全域にひろがっていたものであるらしい。[29]

「塩づけの豚肉」は *side meat* で，これは一応，中部独特の表現であるとみなしてよいであろう。ただし，*side pork* のほか，*side of bacon, side of pork* または *side of meat* の形も散見出来るし，分布範囲も南部方言と同じく，*middlins* (または *middlin meat*) が優勢な Midland 南部には及んでいないことに注意する必要がある。言語地図を見てもわかるように，*side pork* の分布が比較的北部に近くかたよっているのは，北部の *salt pork* と中部の *side meat* の混交によるものであろう。

flannel cake の分布も主として Susquehanna 渓谷地帯を中心にかたよっており，中部全域を cover するものではないが，中部独特の呼び名であることは間違いない。*ADD* の 1895 年の用例では "... They may be made of almost any kind of flour, raised over night with yeast, or on the spot with soda. There are names varying with the locality for all the varieties: buck wheat cakes, griddle cakes, flannen cakes, flap-jacks, &c." とあるから，おそらく地方毎に若干の製法の相違のようなものがあるのであろう。*DAE* の次の用例にも，このような "地方差" があらわれていると考えられなくもない。

> A very delicate species of food, which I tasted then for the first time, called flannel eake. —— Briggs, *Tom Pepper* (1847)

3. 自然と動植物に関するもの

自然関係としては，主なものは「小川」の *run* が一つあるだけである。

---

(29) Kurath, *ibid.*, p. 68.

この方言は特に，Pennsylvania, West Virginia 北部から Ohio にかけての地帯，Delaware 湾，Chesapeake 湾に接する Maryland 東部等で使用密度が高い。

OED によれば，この語はイギリスでも，"a small stream, brook, rivulet, or water course" の意味で，古くから主として北部で方言的に用いられていたことがわかる。*EDD* でも，Emerson が *Wild Life* の中で，*creeks* (locally called runs and drains) と書いていることを記録しているし，Yorkshire あたりの，"There's a run of water in t'beck." というような用例では，この *run* が，"a small channel of water, a stream, brook, runnel" の意味で使われていることが記されている。これらの *run* がアメリカ中部方言の *run* の母胎であることは疑いを容れない。(30)

この *run* は，一般的に普通名詞として用いられるほか，地域によっては，小川の名称をつけて固有名詞として用いられることも少なくない。*ADD* の記録によれば，Montana 南西部と Arkansas 北西部で，"Generally used with a name, as Puckett's Run, Starbuck's Run" とあり，West Virginia 北部では，"Jakes Run, Scott's Run, Wade's Run, Robinson's Run, Dent's Run, Foley Run, and numerous others observed" とある。

動物に関する方言も，中部にはあまり見るべきものはなく，*snake feeder*（トンボ）のほかは，「ミミズ」の *red-worm* が Midland 南部で用いられているくらいである。もっとも，*red-worm* と併用して *fish worm* または *fishing worm* も用いられてはいるのだが，これらの分布は北部にも及んでいるので，中部方言としては厳密な意味では，*red-worm* だけをあげるのが無難のようである。

snake feeder の方は，Kurath の言語地図では，Delaware から西へ向い

---

(30) 北部でもまれには *run* の用例が見られるが，これは若干 nuance の違う意味で用いられており，中部方言の *run* とは区別されなければならない。

With us [in New England] that which runs swiftly a part of the year, and shows a dry bed for the remainder we fittingey call a run.

—— G.Palmer, *The Life of Alice Freeman Palmer.* (1908)

Ohio にかけての地域，Allegheny 山脈の西側，North Carolina 山岳地帯等において使用密度が高く，かなり典型的な中部方言である。ただし例外的に，West Virginia の大部分の地域では，Virginia 高原地帯の方言である *snake doctor* の方がより多く用いられているようであり，Philadelphia 地帯では，*snake doctor* と *snake feeder* が植民地時代から共用されてきた形跡もある。(31) 更に Pennsylvania German area では，*snake feeder* のほか，*snake heeder, snake guarder, snake servant* なども用いられていることをつけ加えなければならない。

この *snake feeder* については，*OED* にも，*EDD* にも，そのイギリスにおける原型を見出すことは出来ず，*DAE* にも Americanism であることが示されている。アメリカ語としての用例も，*DAE, DOA* に 1861 年からのものが若干記録されているだけで，written evidence は多くない。

植物に関する中部方言は，*sugar tree*（砂糖カエデ）と *green beans*（サヤインゲン）の二つがあげられる。

sugar tree は，北部の *hard maple, rock maple* に対応する中部方言であるが，West Virginia において特に使用密度が高い。*sugar maple* という形では，アメリカ東部各州に或程度標準語としてゆきわたっているので，中部には，*sugar maple* のほかに，方言としての *sugar tree* が併存するということになる。(32) アフリカやオーストラリアでこの語が使われていたところから，外来語としてアメリカに持込まれ，Pennsylvania を中心に，Midland 南部へとひろがっていったものと思われる。(33)

green beans はさやいんげんやさやえんどう等，さやを食べる豆のことである。この呼び名は Potomac 河を境にして，その北部で *string beans*, 南部で *snap beans* と呼ばれている一方，*green beans* の方は主として Pennsylvania 南東部から West Virginia, North Carolina 西部までを cover する中部独特

(31) Kurath, *ibid.*, p. 30.
(32) *ADD*, p. 609 参照。
(33) Kurath, *ibid.*, p. 76.

の方言となっている。なお，*string beans* は標準語的でさえあるが，品種改良によって string（すじ）のないものが出廻るようになると，むしろ使用がおさえられ，中部方言の *green beans* と南部方言の *snap beans* が，一般に商業用語としても好まれている傾向があるという。[34]

4. その他

分布範囲から考えるならば，中部全域を cover する代表的な方言として，*piece*（距離）があり，ほぼ全域に及んでいるものとしては *you'uns*（you の複数形）と *stone fence*（石の囲い）がある。その他 *baby coach*（乳母車），*pavement*（歩道），*load*（ひとかかえ），*coal oil*（石油）等があるが，これらは中部方言ではあっても，分布範囲が中部内で偏在しているか，または他の呼び名と併用されたりしている。

先づ *piece* であるが，これは "short distance" の意味でひろく用いられている。この意味での *piece* は，もともとイギリス英語の古い方言で，Lincolnshire から Yorkshire 等の北部にかけて用いられていた記録がある。[35] 現在では，イギリス英語としては obsolete であるが，この語は，イギリス北部からの初期の移民が，Philadelphia 周辺に持込んだイギリス方言の名残りであると考えてよいであろう。[36] *OED* のイギリス英語としての用例では，1817 年のものが最も新らしく，古いものでは次のように，1612 年にまでさかのぼる。

> By practice, euery day going a piece, and oft reading ouer and ouer, they will grow very much, to your great ioy.
>
> —— Brinsley, John., *Ludus literarius or the grammar schoole.*

---

(34) H. Mencken, *The American Language*, One-Volume ed. p. 284.

(35) ただし，He lives a piece of way off. のように *of way* がつくことが多かった。[*EDD*]

(36) "The Midland origin of this expression is beyond doubt since it is found only in those two sections outside the Midland to which Midland features have often spread." Kurath, *ibid.*, p. 29.

これに対し，アメリカ英語としての用例では，1776年のものが最も古く，現在まで続いている。

So I took the gun and went up a piece into the wood.
—— Mark Twain, *The Adventures of Huckleberry Finn.* (1884)

しかしより厳密に言えば，この *piece* はそれだけで上例のように "short distance" の意味を示すほか，単に "a distance" として，次のように使われる例も少なくない。

I've walked quite a piece today, in hopes to get to the ferry.
—— Mrs. Stowe, *Uncle Tom's Cabin.*

用例の中では，まれには *a tiny piece, a small piece* などが見られることがあるが，これらは例外と考えてよいであろう。一般的には，中部方言として用いられる形は，"*a piece*" と "*a little piece*" が最も多い。

You の複数形を *you'uns* であらわすのも中部地方の特徴である。もっとも，中部でも，Pennsylvania 南部を除いた地域では，例えば *ADD* に "You-all is steadily encroaching upon *you-uns*" とあるように，南部方言の *you-all* がはみ出して *you'uns* と併存している傾向がないわけではない。

この *you'uns* は *you ones* からきたという説には真ぴょう性が感じられる。[37] それならば *you'uns* は *you* の複数形ということになるのであるが，南部の *you-all* の場合と同様に，*you'uns* についても，単数の用例が決して珍しくはない。結局，種々の evidence から判断して一般的には *you'uns* は単複両用に使われていると言ってもよいであろう。

「石を積み上げた囲い」の *stone fence* は，北部の *stone wall* に対応する中部方言であるが，主として Pennsylvania を中心に分布し，West Virginia あたりでは，南部方言の *rock fence* の方がむしろ優勢になってきている。

stone fence の呼び名は，イギリス本国で用いられていたものが，植民者と

(37) *ADD* にもこのような説明がある。ただし *DAE* には Scotch の *you yins* からきたと記されている。

ともにアメリカ中部へ持込まれて定着したと見られる。*DAE* の用例でも，初期の植民地時代からすでに用いられていた記録があり，方言としても最も古いものの中に数えられる。

「乳母車」は，北部と南部で *baby carriage* が用いられ，中部では *baby coach, baby buggy* と並んで，まれには *baby cab* が併用されている。この中 *baby coach* は，Delaware, New Jersey 南部から Pennsylvania の南東部にかけて使用密度が高く，*baby buggy* の方は，Pennsylvania 西部から West Virginia 北西部にかけて使用範囲がひろがっている。ただし，これらの地域を含めた北部全体にわたって *baby carriage* も使用されていることに注意する必要がある。(38)

これらの呼び名は，いづれも Americanism で，*OED* にも *EDD* にも記載がない。*DAE* の用例ではこれらが，方言としても，比較的新らしいものであることを示唆するものが多い。

この *baby coach* と似たような isogloss を持つのが *pavement* である。「歩道」は大西洋岸全域を通じて，一般には *sidewalk* であるが，Philadelphia を中心とする地域だけが例外的に *pavement* を用い，中部方言となっている。その分布範囲は，Delaware と Maryland, それに New Jersey 南部と Pennsylvania 南東部を合わせた地域で，要するに商業取引上，Philadelphia の影響下にある一帯と考えてよい。

この一帯は，同時に *coal oil* の分布範囲でもある。「石油」は *kerosene* が北部や両 Carolina 州でひろく用いられているが，中部では *coal oil* と *lamp oil* である。

石油が家庭の燈火用としてのローソクや鯨油にとって代ったのは 19 世紀後半と考えられるが，その際中部では，前述の Philadelphia を中心とする

(38) "The baby carriage seems to have been a development of the 1830's and '40's, and this is the term which developed in New England. Within the Philadelphia trade area, however, the article became known as a *baby coach*, whereas *baby buggy* was adopted west of the Alleghenies and *baby cab* in other regions throughout the country." Marckwardt, *ibid.*, p. 143.

一帯で *coal oil* が定着しはじめ，一方，West Virginia では *lamp oil* が使われはじめたものらしい。Pennsylvania 西部では，地域により *carbon oil* が用いられることもある。[39]

「ひとかかえのたきぎ」などという場合の「ひとかかえ」は，北部方言では *armful* であったが，この表現は Midland 北部にまで浸透してきている。しかし一般的には，*load* の使用頻度が高い West Virginia を除いた中部全域で，*load* と *arm load* が併用されており，これら二つが中部方言であると考えてよい。南部方言の *turn* との間は，かなり明確な isogloss で区別され，中部方言が南部にはみ出る傾向も，ここでは殆んど見られない。

IV. 南部方言

1. 住居と日用品に関するもの

bucket, comfort, weather boards 等は中部と共通なので，ここで取上げられるものは，*pallet*（間に合わせの粗末なベッド）と *lightwood*（たきつけ）ぐらいである。

pallet は普通，二つの意味に分けて考えられる。一つは，*OED* や *WND* などにある "a straw bed or mattress: often connoting a poor or inferior bed" のことで，Old French の *paille*（=straw）からきた。この意味での *pallet* は非常に古く，14 世紀の Chaucer の頃からその用例があり，現在では殆んど obsolete である。

もう一つは，*ADD* にあるような，"an improvised bed made by arranging quilts or blankets on a floor." の意味で，これは *OED* にも *EDD* にもその記載はなく，アメリカ南部だけでひろく Type III に至るまで用いられている Americanism である。[40] 日本式の寝床が連想されて興味深いが，おそらく，植民者達の定着性の少ない厳しい生活の名残りであろうと思われる。

---

(39) Kurath, *ibid.*, p. 60.

(40) *pallet-bed* としては，*OED* にも，1513 年からの記録があるが，これはアメリカ南部方言の *pallet* と同じではない。

Kurath の言語地図で *pallet* の分布を見ると，南部全域を cover して更に Midland 南部にまで及んでいることがわかる。[41] ただ Delaware の一部には，*lodge* が *pallet* と同じ floor bed の意味で例外的に用いられているようである。[42] 北部及び中部には，この南部の *pallet* に対応する方言はない。

「たきつけ」のことを *lightwood* というのも，南部独特の表現である。イギリス英語には方言的にもこの用例はなく，これは Tucker もあげているように "real" Americanism であるといえよう。[43] *DAE* には，"The dead, thoroughly dried heart of one or other species of pine; also, the dead root, knot, or limb of this. Used for fuel or kindling." とあって，用例は 1705 年にまでさかのぼる。

Kurath の言語地図では，この *lightwood* の分布は Cheasapeake 湾から Georgia にかけて，明確な isogloss で示されている。Midland への浸透はなく，例外的に Shenandoh Valley で用いられるぐらいであるが，この場合も，Midland の *pine* と併用されている程度である。

lightwood は *lighted* と韻を踏んで発音されるので，*lighterd* という形で用いられることもある。しかしこれは，*lightwood* に比べて，speech level は低く，用例を見てもおそらく Type I が中心である。*ADD* にも，*lighter'd* のほか，*light'ood* や *lightud*, 或いは *lighter wood* などの形があげられている。[44] しかしこれらの形は，時代とともに，南部でもおそらくその使用が徐々にすたれつつあると考えてよいであろう。

2. 食物に関するもの

食物に関する方言としては，最も代表的なのが，*light bread*（白パン），

(41) South Midland も南部に含めて考えることがある。"It may well be that the South Midland, which has very few distinctive terms of its own but shares some of its vocabulary with the North Midland and some of it with the South, may have to be regarded in the end as a subarea of the South rather than of the Midland." Kurath, *ibid.*, p. 37.

(42) Kurath, *ibid.*, p. 61.

(43) G. Tucker, *American English*, p. 275.

(44) *ADD*, p. 358.

clabber（凝乳），*snack*（軽食）の三つで，そのほか比較的使用頻度の高いものとして，*middlins*（塩づけの豚肉）と *batter cake*（パンケーキ）があげられる。

light-bread は典型的な南部方言で，普通の「白パン」のことである。北部などでは *wheat bread* または *white bread* などと呼ぶが，これも *rye bread* や *corn bread* と区別する際にのみ用いられる言い方で，一般にはただの *bread* が使われる。南部では，"In distinction from cornbread ... 'light' bread."[45] として用いられており，南部でのみ "light" を用いるのは，イギリス英語で方言的に，"Eat light leauened breade."[46] などと *light* を用いていた名残りであろうか。

OED には，ほかにも例えば，"The fourth property is, that it [bread] be light, and somewhat open." (1620) だとか，"Bread: what ought it to be? It should be light, sweet, tender." (1864) など，*light* が "that has 'risen' properly, not 'heavy' or dense" という意味で用いられている。しかし，*light cake* はあっても，*light bread* そのものはイギリス方言にもないので，これも "real" Americanism であると考えてよいであろう。

light-bread の分布範囲は，南部及び南部全域にひろがって Pennsylvania 州境に至る極めて明確な isogloss で示すことが出来る。ただし，海岸地帯では一部，*loaf bread* が併用されているが，これは，*corn bread* を意味する *pone bread* と区別するためであるらしい。[47]

「凝乳」については地方毎にさまざまな呼び名があって，アメリカ語としての統一されたものはなく，Irish からきた *bonny-clabber* が，これらさまざまな地方語，地域語の原型であろうと思われることについては，すでに北部の所で述べた。イギリスにおける *clabber* そのものの用例は19世紀に入るまで見られないので，南部方言の *clabber* も，*bonny clabber* がアメリカに入っ

(45) W. Cather, *Sapphira and the Slave Girl*, (1940) [*ADD*]
(46) W. Bullein, *A dialogue against the feuer pestilence*, (1564) [*OED*]
(47) Kurath, *ibid.*, p. 67.
(48) *OED* では，"We feasted heartily on mush-melons and clabber." (1884) が *clabber* の唯一の用例で，それ以前はすべて *bonny-clabber* である。

てから南部で形成されたものに違いない。

アメリカ語としての *clabber* の用例は，*DAE* では，Webster の "'*Clabber* or *Bonny-clabber*,' milk turned, become thick or inspissated," (1828) が最初で，その後の用例は次のように，南部方言を示唆するものが殆んどである。

> When I told Aunt Patty that the Southern folks ate clabber, she rolled up her eyes.
>
> —— C. Gilman, *Recollections of a Southern Matron* (1838)

なお，Ireland の Munster 地方の記録では，方言としての *clabber* が 1854 年現在で "still used" とある。[49] しかし，*bonny-clabber* が方言的に *clabber* として用いられているという点では同じであるが，この二つの方言に直接の関係を考えることは無理のようである。

「軽食」の意味での *snack* は，南部，Midland 南部において使用頻度が非常に高いほか，Philadelphia や New York 市，Hudson Valley にまで分布範囲がひろがり，極めて popular な呼び名の一つである。*ADD* にも *DAE* にも，実はこの語についての記載はない。これはこの語が方言であるよりも，むしろ "標準語" 的に扱われているからでもあろうか。

OED には "He craved more for spiritual snacks between meals than for physical." 等の用例があって，regular meal に対する "a light or incidental repast" の意味で *snack* が用いられていたことが示されている。しかしこれは，北部方言の *bite* の場合と同様，イギリスでも方言的に用いられていた傾向が強く，*ADD* にも用例は少なからず記録されている。したがって，中部方言の *piece* をも含めて，これらはすべて，イギリス方言が海を渡ってアメリカ方言になったと見るのがおそらく妥当であろう。

「塩づけの豚肉」は南部では *middlin*(*s*) または *middlin meat* である。この分布範囲は，Midland 南部と，South Carolina を除く南部全域に及ん

(49) *EDD* にもこれ以外の記載はない。*clabar, clobar, clawber* となることもある。

でいるが，West Virginia 北部，Virginia の中央部を除く山岳地帯と海岸地帯，それに North Carolina 東部等の地域では，中部方言の *side meat* が *middlin* と併用されて用いられている。

南部ではまた，食用の「豚の内臓」のことを *hosslet* といい，「豚の小腸」は *chittlins* といって，いづれも Type III までを含めてひろく用いられている方言である。[50] *chittlins* は普通，煮るかフライにして食べるもので，*chitterlings* のつまった形である。*middlins* や *chittlins* のように，南部方言では独特の形をとるのも興味深い。

batter cake（パンケーキ）は，北部の *fritter*，中部の *flannel cake* に対応する南部方言で，主として Virginia と North Carolina に分布する Americanism である。

batter cake は普通小麦粉が原料であるが，*DAE* の用例中には "corn batter cakes" や "rice batter-cakes" も見られるので，*batter cakes* はむしろ形状と製法によって区別される呼び名と考えた方がよいのかも知れない。同じく Virginia で使われている *batter bread* も南部方言には違いないが，この方は "... made of corn meal, eggs, and milk, and baked in a deep earthenware dish or tin pan." (*DAE*) で *batter cake* とは同じではない。

3. 自然と動植物に関するもの

自然関係では「小川」の *branch* が典型的な南部方言である。*branch* は勿論，支流 (a tributary of a creek or river) の意味ではイギリス英語と変るところはなく，極めてありふれた語である。しかし，小川 (a small brook, without any suggestion that it is a tributary of a larger stream) という意味では Americanism であり，イギリス方言にもその原型は認められない。*DAE* には1663年にさかのぼって用例が記録されているから，Americanism としてもこの語はかなり古いといえる。

---

(50) Marckwardt, *ibid.*, p. 138.

That Parcell of land lying and being on the same Neck, Beginning at a small creek or Branch.

—— W. Saunders, *Colonial Records* (1663)

1663年といえば，Captain Smith の一行が Jamestown に上陸して以来60年に満たない。少なくともこの頃までのアメリカ各地の植民地は，地理的社会的に互いに孤立していたから，南部独自の環境から生み出された言葉は，そのまま方言として残っていく素地があったに違いない。例えば，アメリカの地理的条件が *bluff* という Americanism を作り出したように，[51] branch も南部の初期の植民者達が，Chesapeake 湾あたりの入りくんだ地形により，*brook* を *branch* と感違いして使用していた名残りであろうと思われる。[52]

ADD によれば，"I went down to the spring branch one mornin' to wash my face." や "to wash their clothes in branch water" のように，*spring branch, branch water* もしばしば用いられるという。これに対して，*winter branch, side branch, running branch* の形は，用いられることがあるとしても頻度は少ない。

次に動物関係では，代表的な方言として *ground squirrel*（シマリス）があげられ，南部全域を cover するものではないが，*mosquito hawk*（トンボ），*fishing worm, earthworm*（ミミズ），*cooter*（カメ）がそのあとに続く。

先づ *ground squirrel* は北部の *chipmunk* に対応する Americansim である。この呼び名の分布範囲は，Kurath の言語地図によると，南部と Midland 南部をひろく cover し，Pennsylvania 南西部にまで及んでいることがわかる。

DAE には *ground-fox squirrel* とも呼ぶことが記されており，用例は次のように1709年にまでさかのぼる。

Ground Squirrels are so call'd because they never delight in running up Trees, and leaping from Tree to Tree.

---

(51) Pyles, *ibid.*, p. 6 参照。

(52) Mencken, *AL I*, p. 223，及び *ADD*, p. 72 参照。

—— J. Lawson, *A New Voyage to Carolina.* (1709)

この用例では，*ground squirrel* の呼び名の由来が述べられていて興味深い。ついでに，形状については同じく用例の中で，"The most beautiful of the whole species is the ground squirrel, which is small and most delicately striped." とあることもつけ加えておきたい。

「トンボ」をあらわす方言は，南部では *mosquito hawk* と *snake doctor* であると考えてよいであろう。このうち，*mosquito hawk* の方は南部でも主として海岸地帯にひろく分布し，*snake doctor* の方は，海岸地帯を除いて Virginia を中心に使用頻度が高い。[53] 前例にならって，これら二つの呼び名の由来を *DAE* の用例の中に求めると，次のようなものがある。

The Muskeetoe-Hawks, are Insects, so called, from their continually hunting after Muskeetoes, and killing and eating them.

—— J. Brickell, *The Natural History of North Carolina* (1738)

The dragon-fly is known as 'snake doctor' from his supposed professional services to snakes.

—— American Folk-Lore Society, *Animal and Plant Lore* (1899)

「ミミズ」は各地方毎にさまざまな呼名があって，方言としては極めて多彩であることは北部のところでも述べた。

南部方言としては一応 *earthworm* があげられるが，その分布は，North Carolina と South Carolina が中心で，Virginia では *fishing worm* が優勢である。もっとも *fishing worm* の分布は Pennsylvania 南西部や West Virginia 北部などにもひろがっていて，相当広範囲な使用領域を持っており，一方，*earthworm* も，New England では都市用語として，New York 市や Philadelphia における場合と同様，用いられていないわけではない。

「カメ」の *cooter* はアフリカ語の *kuta* または *nkuda* からきた呼び名で，Americanism である。[54]

---

(53) Kurath, *ibid.*, Fig. 141 参照。

(54) Mencken, *ibid.*, p. 198.

1918年の *Dialect-Notes* には，"Cooter, a turtle, especially a fresh water turtle." とあって，North Carolina の方言であるという。しかし Kurath の言語地図による isogloss では，*cooter* はむしろ South Carolina を中心に分布していて，幾分 North Carolina にまではみ出しているに過ぎない。

DAE の用例では，1832年以前のものはなく，Americanism としても比較的新らしいもののようにも思える。一方，*OED* には動詞の *coot* があって，用例も1667年にまでさかのぼっていることがわかる。Carolina 方言の *cooter* が，この *coot* と直接結びつくのかどうかは明らかではないが，*cooter* がアフリカ語からきたといわれるだけに，この analogy には興味をそそられる。

植物に関する方言は，南部では，*shucks*（トウモロコシの皮）と *snap beans*（さやを食べる豆）があり，*hay shocks*（乾草の小山）もあげられる。

shucks は，北部及び Midland 北部の *husks* に対応する南部及び Midland 南部の方言で，使用頻度は Virginia と North Carolina, South Carolina において特に高い。

もっとも *ADD* によれば，*shucks* は *shacks* ともいわれて，北部でも別の意味で用いられていたようである。このことは，南部などで *husks* が用いられる場合も同じで，用例には次のように述べられている。

> On the northern belt [of States], shucks are the outer covering of nuts; in the middle & southern regions the word is applied to what in New England is called the husks of the corn. *Shuck,* however, is much more widely used than *husk* in colloquial speech—the farmers in more than half of the U.S. are hardly acquainted with ... *husk* [=] envelope of the ear. In the Middle States, & in some parts of the S. & W., *husk* means the bran of the cornmeal ... In parts of Va., before the war, ... *husk* or *hus'* meant the cob or spike of the corn. —— E. Eggleston, *The Hoosier Schoolmaster* (1871)

snap beans は Virginia で最も使用頻度が高く，North Carolina と South Carolina にも分布範囲が伸びている。ただし North Carolina 西部と South Carolina においては，中部方言の *green-beans* がはみ出してきており，若干

ながら，北部の *string beans* も散見出来るので，分布状況は，Virginia を除いてはやや複雑であるといえよう。[55] *ADD* における 1943 年の用例では "… He has learned to call string beans 'snaps' …" などとあって，*snaps* という呼び名でもひろく用いられていた。

shock は北部方言の *cock* に対応する南部方言で，主として Virginia, West Virginia 及び North Carolina がその分布範囲である。

shock そのものには古くからイギリス英語で，a heap, bunch, bundle (of things) [*OED*] の意味があった。これがアメリカで，先づ，「トウモロコシの茎を積上げた円錐形の山」の意味で使われるようになり，この analogy から南部方言の *shock* も生れたものであろう。北部で *cock* のほかにも，地域語としての *heap* が使われているように，南部でも海岸地帯一帯にかけて地域語としての *pile* が用いられている。いづれも「積み重ねた小山」の意味で，古いイギリス英語を母胎にしていることでは共通していることが興味深い。

4. その他

最も典型的な南部方言の一つが *you-all* (=you) で，*turn of wood* (ひとかかえのたきぎ) がそのあとに続く。*rock fence* (石の囲い) と *slop* (残飯) もひろい意味では南部方言である。

you-all は Type I から Type III を通じて，あらゆる階層の人々にひろく用いられている。*you* の複数形であった *thou* が obsolete になったあとで，これに代る表現として，*you men, you girls, you people, you folks, you guys* 等が用いられているが，*you-all* もこの類型であると考えられる。[56]

この形が発達したのは比較的新らしく，19 世紀の前半からであることは記録でたしかめることが出来る。しかしその起原については，未だに定説は

(55) Kurath, *ibid.*, Fig. 133 参照。
(56) M. Bryant, *Current American Usage*, pp. 237–238.

ない。[57]

この形が単数か複数かについては，いろいろと議論が分れてきた。[58] 単数の例としては，例えば次のようなものがあるが，このような用例は決して少なくはない。

A fine old Virginia lady said to me, 'You all know too much about this coaten business.'

—— C. Ryan 'Errors of Mid Western Speech' *Correct English* (1939)

このように，you-all が単数であるとするのは，その多くが，若干の軽蔑をこめた北部の見方であると思われるので，南部からの次のような用例にも注目しておきたい。

... the belief that we [Southerners] say, 'you all,' meaning one person. It is never so. If we say 'you all' to one person, we mean 'you and your family,' and I notice that the people of this [n.w.U.S.] community, lacking that useful form, say 'you people,' or 'you folks.'

—— Anon, 'They spake with Divers Tongues' *Atlantic Monthly* (1909)

結局，いろいろな evidence を考えると，一般的には上例のような南部の立場をとり，you-all は複数二人称であるとするのが妥当のように思われる。[59]

you-all が *s* をつけて *you-alls* となることも珍らしいことではない。これもおそらく，American Mercury 誌に述べられている "the uneducated Southerner's feeling for the plurality of the expression is so strong that he sometimes says you-alls."[60] というような理由によるものであろう。

you-all は *yóu-all* とアクセントは常に前の部分にあって，[jɔ:l]，[jɔəl] というように発音されることもあるが，*you áll* とは区別される。*yoú-all* は adjective＋pronoun と考えられるのに対し，*you áll* と発音される場合は，

---

(57) Mencken, *AL II*, pp. 375–378.
(58) H. Horwill, *A Dictionary of Modern American Usage*, p. 355 参照。
(59) 中島文雄，『英語学研究室』，pp. 59–64 参照。
(60) Mathews, *DOA*, p. 1908 参照。

pronoun+adjective であって，*all of you* と同じく，方言的ではない。

「ひとかかえのたきぎ」という場合の「ひとかかえ」は，北部の *armful*, 中部の *load* に対して，南部では *turn* がひろくゆきわたっている。

この *turn* はおそらく，イギリス英語で古く用いられていた，*a piece of work* の意味での *turn* と結びつくものと思われる。*OED* にも，"the quantity dealt with at one 'turn' or stroke of work" の意味で *turn* が用いられることを示しているし，*'turn' of wood*, や *turn of water* の用例もある。アメリカに渡ってからは，例えば *DAE* には，"A *turn* signifies such a quantity as each person respectively can carry upon his shoulder or in his arms." や "The next day I took a 'turn' of corn to the water mill." のような用例が記録されており，一方 *ADD* においても，*turn of wood* のほか，*turn of corn* や *turn of water* の記録が残されている。(61) これらはいづれも，*turn* の系譜をしめす evidence であると言えないであろうか。

rock fence は北部の *stone wall*, 中部の *stone fence* に対応する南部の表現である。分布範囲は，Midland 南部と South Carolina を除いた南部全域と考えてよいが，地域によっては，*rock wall* と併用されていることもある。

これは要するに，*rock* と *stone* の違いだけであって，"The English preference for *stone*, as something to throw, is maintained in New England and its western dependencies; but from Pennsylvania south, *rock* is preferred." (62) とあるように，「石」のことを南部では *rock* と呼ぶことから生れた方言であるといってよい。

豚のえさなどにする「残飯」の *slop* は，北部方言の *swill* に対応する呼び名であるが，分布範囲は，ひろく中部と南部全域を cover しており，南部だけの方言ではない。

Kurath によれば，昔は北部，中部，南部を問わず，歴史の古い町では，*swill* と *slop* の両方を用いていたのだという。(63) それが時代とともに，新らし

(61) Kurath, *ibid.*, Fig. 72 参照。
(62) Mencken, *ibid.*, One-Vol. ed. p. 137.
(63) Kurath, *ibid.*, p. 13.

い植民者達の影響を受けて，現在のように北と南に分れた。言語地図の上でも，北部の *swill* に混って *slop* が点在し，南部でも一部 *swill* が見られることは，両方の呼び名を併用していた頃の名残りであろう。しかし一般的には，例えば次の *ADD* の用例にもあるように，少なくとも北部と南部では，はっきりと区別されているようである。

I think our corresponding Southern word [for *swill*, heard in n.w. U.S.] would be 'slop.' Certainly it wouldn't be 'swill.'

—— Anon, 'They Spake with Divers Tongues' *Atlantic Monthly* (1909)

V. む　す　び

以上述べてきたことを改めてふり返ってみると，複雑な方言を，単純かつ平板的にしかとらえきれないもどかしさが残る。一つ一つの方言には当然のことながら，独自の形成過程と発達の歴史があり，言語世界の中で生きて躍動する姿もなければならない筈である。この意味でも，それぞれに強い個性を持つ方言の実態を浮彫りにしようとする試みには，常に方言成立の背景についての強い関心が伴なわなければならぬことを，ここで再び強調しておくのも無駄ではないと思われる。

はじめに述べたように，アメリカ方言の成立には初期の移民の動向が大きな影響を与えたことを否定することは出来ない。しかしながら，方言の成立が，このような初期の，そしてその後に続く移民の歴史との関連性だけで説明しつくされるものでないことも勿論である。極端な場合，方言成立の要因を論ずるにあたって，気候の差や，各地域居住者の身体的相違にまで言及されることさえあるが，これは当らない。[(64)] ただここで，このアメリカにおける移民の歴史の背後にある社会的要因については，これを看過してしまうことは出来ないであろう。例えば，産業とか聚落の都市化の問題，それに教育などである。

(64) Francis, *ibid.*, pp. 482–483.

周知のごとく，アメリカ革命が起った1776年には，すでに産業革命は進行中であった。無限にひろがるとも思えた広大な沃野と豊富な天然資源，多くの自然の良港と交通路としての河川の発達，さらにこれらに加うるに数多くの精力的で希望に満ちた技術者達，これらの諸条件は，当然のことながらアメリカにおける産業革命を一層促進せしめずにはおかなかった。人口の急速な増加はいきおい商品の市場性を高める。そして拡大された産業は，自然に移民達に好条件の就業の機会を保障する。かくして，人口の増加と産業の振興，国富の増大は相互に作用し合って，さらにまた，南ヨーロッパや東ヨーロッパからの移民を数多く招き寄せる結果になっていった。

このような産業の発達は，必然的に都市の発達を促す。事実1775年においては，英語使用国の都市の中で，Philadelphia と Boston は，London に次いで，2，3位を占める重要都市にのし上っていた。これらのこともまた当然に，移民の流入とともに方言に対して影響を与える一つの factor であったと考えないわけにはいかない。

一方，教育の分野においても，アメリカにおける普及度や一般的教育水準は，イギリスのそれに比べてさえ決して遜色のないものであった。American Revolution を契機としてなされた Webster などに代表される linguistic nationalism の台頭は，American English の特色を British English に対照させて，より明確にする作用を果したことも特筆に値いする。そしてこのような教育の普及を背景とした，American English に対する関心と自覚とが，それまで無雑作に受入れられてきた時代おくれの vocabulary や発音に対する反省を促がし，明確なアメリカ的文法体系を打出す動因になった，ということにも注目しておく必要がある。

しかしながら，以上述べてきたいかなる要因も，単独の形で方言の成立に寄与し，もしくは影響を与えるということが考えられないのは言うまでもないことであって，これも地域差があることではあるが，種々の要因が相互に交錯し，総合的に方言に影響を及ぼす力となったと考えるのが妥当である。

このようにさまざまな要因を含んで成立したアメリカ方言は，19世紀に

入る頃までにはすでにひろくその存在を認められるようになっていた。[65] 演劇の台詞の中にも方言が取入れられたり，Webster の *Blue-Backed Speller* があらわれて以来，各地で作り出された Spelling Book にも，地域的な発音の相違が脚注につけられたりし始める。そして 20 世紀初頭には，教科書の編纂者や方言の研究者達によって，アメリカにおける方言は大体，Eastern または New England 方言，南部方言 (Southern)，一般アメリカ方言 (General American) の三つに区分されるまでになったのであった。[66] これはいわば，アメリカ方言の研究にとっての“揺籃時代”ともいえる。

本稿で概観してきたものは，このような揺籃期を背景にして打樹てられた科学的な調査研究の成果のうち，大西洋沿岸の各地方の部分に局限されている。[67] これを Kurath が引いた方言の境界線に従って，北部，中部，南部と分けてきたのであった。しかしより厳密な意味では，例えば発音の分布範囲を示す境界線と，語いや文法的用法の分布範囲を示す境界線とは，必らずしも一致するとは限らず，それ故に，一地方の一方言の名のもとに，これらをひとまとめにして論ずることは，或程度の正確さを犠牲にした上でなければ出来ない。したがって，本稿で述べてきたことは，あくまでも語い中心の，しかも，例外と矛盾を常に含んでいることを前提にした，最大公約数的な方言分布の実態であるというほかはない。

これらの方言は，前述のごとくアメリカ東部を三つに分けて分類してはあるが，本文中にも述べてきたように，それぞれの分布状況は決して同じではなかった。これら複雑な個性と背景を持つ方言を使用階層の問題をも含めて，平板的ではなく，いかにしてもっと“立体的”にとらえるか，はおそらく今後に残された研究課題であるといえよう。おわりにつけた附表は，この平板的な相違だけでも，より明確に把握したいという一つの試みであり，同時にまた本稿のまとめとしての一端を托したものに過ぎない。

---

(65) Marckwardt, *ibid.*, p. 132.

(66) A. Bronstein, *The Pronunciation of American English*, p. 44.

(67) Francis, *ibid.*, pp. 480–583 参照。

参考文献

(項目の末尾の［　］内は本文中に使用した略号)

Craigie et al, *A Dictionary of American English*, Chicago, Univ. of Chicago Press, 1965. [DAE]

Murray et al, *The Oxford English Dictionary*, Oxford, Univ. Press, 1933. [OED]

Mathews, M.M., *A Dictionary of Americanisms on Historical Principles*, Chicago, Univ. of Chicago Press, 1966. [DOA]

Wentworth, H., *American Dialect Dictionary*, New York, Thomas Y. Crowell Co., 1944. [ADD]

Wright, J., *The English Dialect Dictionary*, London, The Times Book Club, 1898. [EDD]

Bryant, M.M., *Current American Usage*, New York, Funk & Wagnalls Co., 1962. [CAU]

Horwill, H.W., *A Dictionary of Modern American Usage*, Oxford, University Press, 1944. [MAU]

Fowler, H.W., *A Dictionary of Modern English Usage*, Oxford, University Press, 1965.

Nicholson, M., *A Dictionary of American English Usage*, New York, The New American Library of World Literature, Inc., 1958.

Kurath, H., *A Word Geography of the Eastern United States*, Ann Arbor, Univ. of Michigan Press, 1966.

Atwood, B., *A Survey of Verb Forms in the Eastern United States*, Ann Arbor, Univ. of Michigan Press, 1953.

McDavid, R.I., "American English Dialects," *The Structure of American English*, New York, Ronald Press Co., 1956.

Mencken, H.L., *The American Language*, 4th ed. New York, Alfred A. Knopf, 1957.

Mencken, H.L., *The American Language*, Supplement I & Supplement II, New York, Alfred A. Knopf, 1956.

Krapp, G.P., *The English Language in America*, New York, Century Co., 1952.

Pyles, T., *Words and Ways of American English*, New York, Random House, 1952.

Marckwardt, A.H., *American English*, New York, Oxford University Press, 1958.

附　表

アメリカ英語方言一覧表（語いについて）

区分＼地域	北部（1～6）				中部（7～13）					南部（14～18）			南部及び南中部
	北部全域 (1～6)	New England 東部 (1, 2)	北部内陸地方 (4)	New York 市及び Hudson 河流域 (5, 6)	中部全域 (7～13)	北中部 (7, 8, 10, 11)	Pennsylvania 東部 (7, 8)	Pennsylvania 西部 (10)	南中部 (9, 12, 13)	南部全域 (14～18)	Virginia 東部 (14, 15)	南 Carolina (18)	(9, 12～18)
1	**eavestrough**	eavestrough (gutters)	eavestrough	eavestrough	—	spouting spouts	spouting spouts	spouting spouts	gutters	**gutters**	gutters	gutters	gutters
	clapboards	clapboards	clapboards	clapboards	**weather boards**	weather boards	weather boards	weather boards	weather boards	**weather boards**	weather boards	weather boards	weather boards
	—	piazza	stoop	stoop	—	—	—	—	—	—	—	piazza	—
	curtains	curtains	curtains	curtains	**blinds**	blinds	blinds	blinds	blinds	—	curtains	—	—
	pail	pail	pail	pail	**bucket**	bucket	bucket	bucket	bucket	**bucket**	bucket	bucket	bucket
	spider	spider	spider	spider	**skillet**	skillet	skillet	skillet	skillet	—	spider	—	—
	—	comforter	—	comfortable	**comfort**	comfort	comfort	comfort	comfort	**comfort**	comfort	comfort	comfort
	—	—	—	—	—	—	toot	poke	poke	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	pallet	**pallet**	pallet	pallet	pallet
2	**johnnycake**	johnnycake	johnnycake	johnnycake	**corn pone pone bread**	corn pone pone bread	corn pone pone bread	corn pone pone bread	corn pone pone bread	**corn pone pone bread**	corn pone pone bread	corn pone pone bread	corn pone pone bread
	bite	bite	bite	bite	—	piece	piece	piece	snack	**snack**	snack	snack	snack
	salt pork	salt pork	salt pork	salt pork	—	side meat	side meat	side meat	middlin meat middlin(s)	**middlin meat middlin(s)**	middlin meat middlin(s)	middlin meat middlin(s)	middlin meat middlin(s)
	—	sour-milk cheese	dutch cheese	pot cheese	—	smearcase	smearcase	smearcase	clabber cheese	—	curds curd cheese	—	—
	—	bonny-clabber bonny-clapper	lobbered milk loppered milk	lobbered milk loppered milk	—	—	thick-milk	crudded milk	clabber milk	**clabber**	clabber	clabber	—
	—	raised-bread riz-bread	raised-bread riz-bread	raised-bread riz-bread	—	—	—	—	light bread	**light bread**	light bread	light bread	light bread
	—	fritter	—	—	—	—	flannel cake flannen cake	—	—	**batter cake**	batter cake	batter cake	—
3	**brook**	brook	brook	brook —kill	—	run	run	run	branch	**branch**	branch	branch	branch
	darning needle	darning needle	darning needle	darning needle	**snake feeder**	snake feeder	snake feeder	snake feeder	snake feeder	—	mosquito hawk	mosquito hawk	—
	angleworm	angleworm	angleworm	angleworm	—	—	fish worm	fishing worm	fish worm	—	fishing worm	—	—
	—	—	chipmunk	chipmunk	—	—	chipmunk	chipmunk	ground squirrel	**ground squirrel**	ground squirrel	ground squirrel	ground squirrel
	hay cock	hay cock	hay cock	hay cock	—	—	hay cock	hay cock	hay shock	**hay shock**	hay shock	hay shock	hay shock
	—	buttonwood	buttonball	buttonball	—	—	buttonwood	—	—	—	—	—	—
	—	sugar maple	hard maple	hard maple	—	—	—	—	sugar tree	—	—	—	—
	—	—	string beans	string beans	—	—	string beans	green beans	green beans	**snaps snap beans**	snaps snap beans	snaps snap beans	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	cooter	—
	husks	husks	husks	husks	—	husks	husks	husks	shucks	**shucks**	shucks	shucks	shucks
4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	**light wood**	light wood	light wood fat wood	—
	whiffletree whippletree	whiffletree whippletree	whiffletree whippletree	whiffletree whippletree	**singletree**	singletree	singletree	singletree	singletree swingletree	**singletree swingletree**	singletree swingletree	singletree swingletree	singletree swingletree
	swill	swill	swill	swill	**slop**	slop	slop	slop	slop	**slop**	slop	slop	slop
	stone wall	stone wall	stone wall	stone wall	—	—	stone fence	stone fence	rock fence	**rock fence**	rock fence	rock fence	rock fence
	—	—	—	—	**piece**	piece	piece	piece	piece	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	you'ns	you-all	**you-all**	you-all	you-all	you-all
	—	—	baby carriage	baby carriage	—	—	baby coach	baby cab	baby carriage	**baby carriage**	baby carriage	baby carriage	baby carriage
	—	—	—	—	—	—	pavement	—	—	—	—	—	—
	—	—	armful	armful	—	—	armful	armful	load	**turn**	turn	turn	—
	—	—	—	—	—	—	coal oil	lamp oil	lamp oil	—	—	—	—

※　使用階層は Type I, II 以上。地域欄の数字は 272 頁の図による。

Tucker, G.M., *American English*, New York, Alfred, A. Knopf, 1921.

Kerr & Aderman, *Aspects of American English*, New York, Harcourt, Brace & World, Inc., 1963.

Thomas, C.K., *An Introduction to the Phonetics of American English*, New York, The Ronald Press Co., 1947.

Bronstein, A.J., *The Pronunciation of American English*, New York, Appleton-Century-Crofts, Inc., 1960.

Reed, C.E., *Dialects of American English*, New York, World Publishing Co., 1967.

中島文雄　『英語学研究室』研究社，1961.

宮部菊男　『イギリス・アメリカの言語』創元社，1958.

豊田　実　『アメリカ英語とその文体』研究社，1965.

尾上政次　『現代米語文法』研究社，1957.

山崎英夫　『アメリカのことば』研究社，1961.

武本昌三　"アメリカ英語における方言の研究"「室蘭工業大学研究報告」第5巻第2号，1966.

武本昌三　"アメリカ英語における北部方言の特徴について"「人文研究」第38輯，1969.

武本昌三　"アメリカ英語における南部方言の特徴について"「人文研究」第39輯，1969.

武本昌三　"アメリカ英語における中部方言の特徴について"「人文研究」第41輯，1970.